

話し合ったテーマ

基礎自治体ごとに話し合いたいテーマを事前に設定しました。

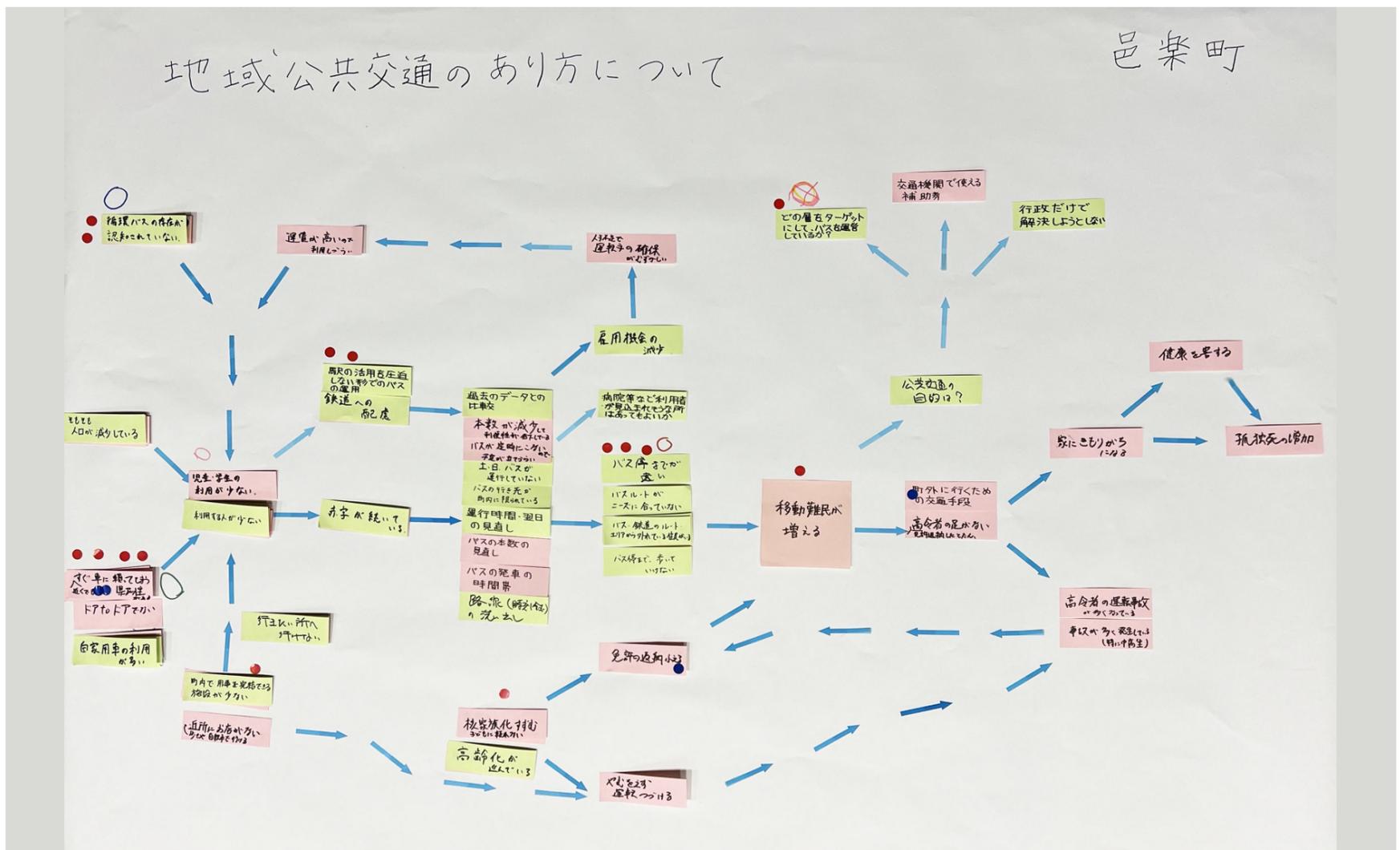
地域公共交通のあり方について

自治体名

邑楽町

課題の構造図

テーマについて詳しい方や対象者へのヒアリング、自分自身の経験などから、チームのメンバーで課題を引き起こしている要因同士の複雑なつながりを紐解き、整理した図です。



フォーカスした問い

チームで話し合い、課題の構造図の中のどこにポイントを絞るといいのかを定め、誰の・どんな行動を・どう後押しするのか?を、「問い」のかたちにとめました。

1

公共交通の利用者のニーズを把握できていない

地域公共交通のあり方について頭を悩ませている行政が地域住民の話に耳を傾け、ニーズを理解することでバスの利用者を増やすために、何が可能か?

2

利用者が少ない

体を動かす機会が少ない高齢者が最寄りのバス停まで歩き、目的地のバス停からも歩く楽しみを得ることで、継続的、積極的に利用するために、何が可能か?

3

自家用車利用が前提になっている

車を運転しはじめる前の子どもや大人が、小さい頃から慣れ親んでもらうことで将来の車以外の移動手段(バス、電車、自転車)を選択肢に入れるために、何が可能か?

未来の種

問いに対して、どんなアクションを起こすとより良い未来につながるのか、チームで話し合った意見の中から、特に実現してみたい「未来の種」となるようなアイデアの一覧です。

バス停の井戸端計画	溜まり場になるバス停。町内循環バスの停留所に集まって、独自のコミュニティをつくる。椅子、テーブルなどを用意し、そのような場所を設ける。
てくてくバス	おうらてくてくアプリ内で特典をえられる。月1回オーランドさん同乗日をつくり、その日は特典2倍。
公共交通の寺子屋	小中学生や高齢者などの希望やニーズを聞く。スマホ教室開催日や、町内中学郷土学習の時間を活用し、公共交通の必要性を学ぶ機会を設ける。
Happyチューズデー	毎週火曜日、邑楽町町内のスーパーで、町内循環バス利用者には割引券などの特典をうけられるサービスを提供する。
Happyフライデー	毎週金曜日の夜に、邑楽町在住者や在勤者が、自家用車を使わずに飲み場を開けるように、町内循環線の便を増設する。